

## 宮崎経済の動きがここでわかる!

文字のサイズを変更する

「キーパーソン」書籍化第2弾 ▶



検索

ホーム &gt; キーパーソン &gt; 橘百貨店代表取締役社長 滝澤弘司さん

## キーパーソン

## 橘百貨店代表取締役社長 滝澤弘司さん

クリップ

ツイート 0

いいね! 2

2014年06月23日

現在ログイン中です  
(keizai1)

ログアウト

会員様お問い合わせ  
ご意見・ご要望をお寄せください  
退会を希望される方

クリップリスト

## 経営経験、企業の力に

橘百貨店の再生へ陣頭指揮を執る。全国で地方百貨店は次々と閉鎖や廃業に追い込まれ、構造不況業種と位置付けられている。メガバンク行員から投資会社に転職し、宮交シティを始め、多くの企業の事業再生や拡大に携わった経験豊富な“経営のプロ”だ。今回のミッションは「生易しいものではない」と厳しい目で見ると、「言い訳はしない。経営を健全な状態にして戦えるチームをつくる」と、意気込みは高い。

大学卒業から29歳までメガバンクの行員として「がむしゃらに働いた」。数字だけを求められる世界に身を置き、都心の担当エリアで新規融資先を開拓。「サボり方も知らず1日30件回った」。門前払いがほとんどだったが、提案型の営業で根性を培った。多くの経営者たちと知り合い、業績の厳しい会社もあった。「銀行の立場では資金提供という機能しかなく、本質的な事業改善ができない」というのが率直な思いだった。



銀行員から投資会社へ転職し、多種多様な業種の経営に携わった滝澤弘司さん=ボンベルタ橘

また、「将来性のある企業があっても、業績が良くなければ銀行の枠組みでは融資できない。本当に資金が必要な企業に力を貸してあげられない」というジレンマに悩んだ。

「なんのために一生懸命仕事してるんだろう」。一度疑問を持つと、解決しなければ前に進めない性格。「自分の手でできることを増やしたい。困っている企業を助けたい」。そう思った3カ月後の2005年夏には銀行のバッジを外し、投資会社に転職した。

投資会社には4年間在籍。この間、極楽湯（東京）や飲食店経営会社のワイズテーブルコーポレーション（同）、市場運営会社などで役員として経営拡大に携わった。「うまくいっている会社の事業価値を最大化させるミッションもあれば、下向きの会社を良くするケースもあった」。その中で「ひとつの転機」になったのが06年2月の宮交シティの社長就任だった。

初めての社長業だったが、「銀行員のときの取引先と重なって見えた」。従業員の給料やテナント料の支払いばかりか、生活にすら困っているテナントのオーナーもいた。社長交代による彼らの不安もひしひしと感じた。「適当にやったら路頭に迷う方がたくさん出る。自分がやらなければいけないという責任感が大きかった」

## キーパーソン

06月23日  
橘百貨店代表取締役社長 滝澤弘司さん06月19日  
太陽工業社長 梶井崇之さん06月16日  
宮崎山形屋社長 山下隆幸さん06月12日  
農業生産法人サイトーファーム専務 齋藤幸紀さん06月09日  
ハブターズ社長 後藤ユミ子さん06月05日  
キンピールマーケティング宮崎支社長 山下健一さん06月02日  
県商工会議所青年部連合会会長 米良充朝さん05月29日  
日本情報クリエイティブ社長 米津健一さん05月26日  
飯干商店専務 飯干隆義さん05月22日  
丸哲水産社長 日高莞次さん

## アーカイブ

2014年06月

2014年05月

2014年04月

2014年03月

2014年02月

2014年01月



「小さな成功の積み重ねが大切」と語る滝澤弘司さん

「宮交シティで生まれ育ち、思い出の場所だという方がたくさんいた」。地元ファンがサポーターだった。「もっと良くしたいという方が2倍いれば、再建への力も2倍になる」。若者向けの衣料品店や飲食店の誘致など、コンセプトを一新するような取り組みが目立つ一方で、看板やトイレの改装、照明など「コツコツと中身をよくしていく作業を積み上げた」。そして、1年後には売り上げの低減は抑えられ、その後は収益を投資に回せるようになった。

さらに転機が訪れた。09年に投資会社から独立した。「宮交シティの社長を経験したことで、こうした企業で働く人たちに無責任なことができない」という気持ちが強まったという。「自分で納得のいく仕事をしようと思ったら、自分でやるしかない」。銀行員を辞めたときの原点に戻った。そして経営全般やM&A（企業の合併・買収）を支援する新会社「経営共創」（東京）を立ち上げた。

新会社と、飲食店経営会社「ジャパン・ホスピタリティ・マネジメント」（宮崎市）、橘百貨店のほか、グループ会社のエアラインホテル社長も兼務する。「経営が健全な百貨店でも苦戦している経済環境。戦える組織をつくらなければいけない。少しでも業績が上がれば、社内のモチベーションも上がる。小さな成功体験を重ねることで、雰囲気は変わる」と意気込みを語った。

## ここが聞きたい

－ 経営支援で取り組むことは。

橘百貨店を含めて、準備期間はいつもない。やりながら自分で勉強する。同業他社や近い業態のネットワークをたどると、意外に必要な情報は拾える。また、従業員の個人面談を行うと、経営上の問題が見えてくる。やるべきことをやっていない会社も多い。当然、経営を維持できないから給料がカットされてモチベーションが下がる。そしてやる気のある人から辞めていくケースもある。現場の従業員の声が幹部に届いていないこともあり、企業文化を変えて適材適所を実行することが大切。

－ 宮崎の風土は。

全体的に良くも悪くもおっとりしている。仕事にも期限がない雰囲気だが、残念ながらそんな余裕はない。スピード感を意識しなければならない。男性を敵に回したくないが、女性の方がしっかりしている印象。

## わたしのオススメ

活字派。ビジネス書を2、3冊持ち歩いている。飛行機に乗っているときは誰からも邪魔されない時間。テレビは面白いけど、頭の中を通り過ぎていく。本は自分の目で取りに行き、脳で解釈する。読書している人とそうでない人の差は大きい。線を引きながら読む。内容を自分の行動に落としにくいと自分のものにならない。（談）

## プロフィール

**たきざわ・こうじ** 東京都出身。中央大法学部卒。三和銀行（現三菱東京UFJ銀行）で法人担当、ストラクチャードファイナンス部を経て東京の投資会社へ。2006～11年、宮交シティ社長。13年2月からエアラインホテル社長。趣味はサッカー。全国高校サッカー選手権では桐朋高（東京）で都大会決勝まで進出。学生時代のバイト経験で、魚をさばき、すしを握ることも。1975（昭和50）年10月生まれ38歳。

「宮崎経済をリードするキーパーソン100人 第2弾」好評発売中。



価格は840円（税込み）。県内主要書店で販売。  
問い合わせは宮日文化情報センター TEL0985（27）4737